

平成18年度第5回（第6期第4回）浦安市廃棄物減量等推進審議会（議事要旨）

1 **開催日時** 平成19年3月19日（月） 午後2時～午後5時

2 **開催場所** 文化会館 中会議室

3 **出席者**

（委員）

横山会長、服部副会長、奥井委員、前野委員、北島委員、新井委員、木元委員、大塚委員、西出委員、加納委員、小林委員

（事務局）

大野部長、柏木次長、永井課長、峰崎課長補佐、加藤係長、飯沼主事、土田主事
八千代エンジニアリング(株) 2名

4 **議 題**

（1）一般廃棄物処理基本計画の策定（改定）について

5 **議事の概要**

（1）パブリックコメントの結果について

6件の意見があったことを報告し、ホームページ上で全ての意見に回答をつけて掲載することを伝えた。

（2）審議会委員からの意見の紹介

（3）「浦安市一般廃棄物処理基本計画の策定について」答申(案)の説明

出された意見を含め、会長及び事務局で検討することに決まった。

（4）前回審議会を受けた質問（日野市の家庭ごみ量減少の要因）についての報告。

6 **会議経過**

傍聴者の入場、会長挨拶、環境部長挨拶を行った後、会長が議事を進行した。

事務局から、一般廃棄物処理基本計画の策定(改定)のパブリックコメントについての報告及び別に委員より受け付けた意見を報告した。そして、委員より意見及び質問を受けた。その際の意見及び質問と事務局の回答は次のとおり。

- ・会 長 このパブリックコメントについて、追加で何か募集をしたほうがいいですか。それとも、もうされていますか？
- ・事務局 現在事務局で回答を作成しているところですが、まだ決まってはいません。

- ・会 長 回答は市から出すのですか？
- ・事務局 はい。パブリックコメントの資料には原文のまま載せてありますが、ホームページ上で、1問1答形式で、全てに回答をつける予定です。
- ・会 長 ありがとうございます。今日のこの意見を議論の参考にしていただければと思います。

続いて、事務局より「浦安市一般廃棄物処理基本計画の策定について」答申(案)についての説明をし、委員より事前に受けた意見の紹介をした後、委員より意見及び質問を受け付けた。その際の意見及び質問と事務局の回答は次のとおり。

- ・委 員 これは教えてほしいんですが、資源化率30%以上という数値目標について、達成できるという何か対策みたいなものはあるのでしょうか。この項目だけで、ごみが30%とか50%本当に減るといふ裏づけみたいなものがありますか。
- ・事務局 プラスチックと紙については、様々な議論が出ていまして、確実にやるというところにはまだなっていないんですが、これをやれば資源化率30%というのは間違いはないと考えています。最終処分量についても、エコセメント化は、受け入れ量の限界量というのがあると思います。その点を考えますと、新しい資源化についても考えていかないと、50%は難しいのかなと思います。資源化率30%に比べて、最終処分量50%減というのは、今後の新しい資源化動向によって変わってくる可能性はあります。
- ・委 員 もう1つ。資料に関連してなんですが、事業系ごみ5%以上の削減と言うことで、全体で平成17年度でオーバーしているのですが、この辺はどうですか。
- ・事務局 文面のほうは「平成17年度以下にすることを」としか載っていないと思うんですが、ここもやはり「平成17年度と比較して5%以上の削減」というのを載せようかと考えています。浦安は事業所がまだまだ増える状況があります。皆さんが減量に取り組んだとしても、全体量は増えてしまいますので、これは各事業所ごとに5%以上の削減という意味合いでいいのかなと思っています。総量で5%減らすという話になると、かなり厳しいのかなと思います。
- ・事務局 率直に言って、浦安のごみを減らしていくために、事業系のごみが大きな

問題だということはハッキリしています。すでに先頭を走っている事業所集団には超過達成をどんどんしていただくというのは基本です。新しくできた会社やお店で、ごみの減量なんか全然考えていないといったところの人たちとごみゼロ課は対峙して、「こうですよ」と何度も足を運んでやらないといけません。そのために、基本は、進んでいただくところはどんどん進んで行ってもらい、30%~50%削減をやって、全体がトントンとなる。あまねくいろいろな団体がこれをしていただくと、本当に全体が超過達成するということですね。ぜひ期待していますので、みんなひっくるめて、ここに参加している事業所さんは頑張ってくださいと思います。

- ・ 会 長 前に、検討結果の中にもあったのですが、事業所が増えていく中で全体量をマイナスにしていくというのは数字がわかりにくいですよ。今お答えがあったように、事業所ごとに5%だったら、それをしっかり目標に掲げて、今がどのくらいなのかというのを事業者さんに押さえてもらって、そこから何年で5%というのを評価できるようにしたほうがいいと思います。既にやっているところは、かなり大変だとは思いますが。
- ・ 事務局 ただ、ここにいらっしゃる事業者の方は皆やっていて、一番やっていない事業所は浦安市役所なんです。我々も多量排出事業者ですから相当厳しくやっていくつもりです。ですから、市役所のごみも有料にして、実際にうちもお金を払うようにしています。何度か紹介しましたが、浦安市長の松崎市長が払って松崎市長が受けるという、実に奇妙なことをやっているんですが、これでコストをきちんと見させているという作業をしていますので、うちが減らないと、普通のところだって減らないと思うんです。それは、口ばかりじゃないかと言われる一番の理由になってしまうので、やはり、うちが頑張るという決意をしています。
- ・ 委 員 具体策については、これから5年間、10年間のサイクルで検討するものではないでしょうか。
- ・ 事務局 これは、こういうことをやればこうできますというものを例示してあるので、その後にもやることはたくさんあります。逆に言うと、この後も市民の皆さんからどんどんアイデアが出るだろうし、技術革新の中で進んだりすることもあると思います。ごみ行政はすごく変化していますし、技術も進んで

いますので、情報を収集して検討を行っていきます。

続いて、前回審議会で受けた質問（日野市の家庭ごみ量減少の要因）について報告をした。その際の意見及び質問と事務局の回答は次のとおり。

- ・事務局 まず、収集方法がステーション方式であったため、ごみの排出マナーの悪化や、少量事業系ごみの混入なども考えられました。それが戸別収集になり、ごみが適正に排出されるようになったということ。また、マイバッグなど発生抑制の取り組みにも力をいれ、啓発活動などを行ったということでした。
- ・会長 戸別収集に変更したんですね。
- ・事務局 そうですね。戸別収集に変更したのが一番大きいということです。
- ・委員 資料中での「現計画の計画目標に対する達成状況」という表のところで、③「最終処分量」について、達成状況が○になっていますよね。私はもっと達成目標に近づいているので◎と感じる。何で○かなと思ったのですが。
- ・事務局 もう既に目標を達成しているものには、◎という評価をしています。他の項目については、市内の話で、みんなで頑張りましょうという話なんです。最終処分場については、他県、他市に依存している話なので、シビアに評価しないといけないと思っています。
- ・委員 平成17年度に対して資源化率30%以上の実施ということですが、容器包装を資源化するにあたり、今現在紙製容器は雑誌と一緒に収集を行っていると思いますが、それ以外の収集方法を考えるのでしょうか。
- ・事務局 紙製の容器包装というのは、一般収集で雑誌に挟んでという形の収集も行ってはいますが、今現在拠点回収でもやっています。ただ、絶対量として少ないということがあるので、例えば他の市ですと、紙製容器包装を袋で集めて収集しているところもありますが、絶対量が少ない中でそういった形で収集するということにつきましては今後検証が必要だと思っています。
- ・事務局 一番管理がしやすいのは、自治会や子供会などで行っている集団資源回収だと思います。新聞、雑誌、段ボールとかを集めているんですが、そこで紙製容器をどのように扱えるかということ、1度、市と資源事業協同組合さんとお話しさせていただいて、検討する必要があるなと思っています。ティッシュボックスも、詰め替えられるものも売っていますが、そういった余分なパ

パッケージのない商品を買ってくださいと言っても、なかなかそうもいかない
んですよね。5パックセットなんかで安く売っていたら買いますので、そう
いう中でどのように受け皿を作っていくのかという作業をしなければなら
ない。

- ・会 長 ありがとうございます。ほかになれば、今回の答申案については、今
出たご意見なども入れて、私と事務局のほうでまとめさせていただいて、答
申をしていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

議事のほうは、これで終了になります。どうもありがとうございました。